

卒業演奏、卒業作品、卒業論文、卒業制作の審査基準(音楽学部)

卒業演奏、卒業作品、卒業論文、卒業制作の審査基準

- 1 卒業演奏の審査は、以下の観点から総合的に行うものとする。
 - (1) 演奏作品の理解と展開
演奏作品の調査及び考察が適切に行われている。また、それらから得られた知見が演奏に活用、展開されている。
 - (2) 演奏の方法、技法等の適切性
研究課題に対して演奏方法が妥当である。また、専門的知識、技能、技法等が修得され、適切に用いられている。
 - (3) 演奏の表現力、充実度、完成度
研究成果となる演奏において、研究課題に対応した表現力を有している。また、内容が充実しており、十分な完成度が認められる。

- 2 卒業作品の審査は、以下の観点から総合的に行うものとする。
 - (1) 先行作品の理解と展開
作品制作の参考とした先行作品の調査及び考察が適切に行われている。また、それらから得られた知見が作品制作に活用、展開されている。
 - (2) 作品制作の方法、技法等の適切性
研究課題に対して作品制作方法が妥当である。また、専門的知識、技能、技法等が修得され、適切に用いられている。
 - (3) 作品制作の表現力、充実度、完成度
研究成果となる作品制作について、研究課題に対応した表現力を有している。また、内容が充実しており、十分な完成度が認められる。

- 3 卒業論文の審査は、以下の観点から総合的に行うものとする。
 - (1) 研究テーマの明確性、適切性
研究テーマが明確かつ適切に設定されている。
 - (2) 先行研究の理解と提示
先行研究が適切に提示、言及され、精確な読解や的確な評価が行われている。
 - (3) 研究方法の妥当性
研究テーマ及び内容に応じた研究方法が選択されている。
 - (4) 内容の実証性、論理性
課題の設定から結論に至る論旨が明解で一貫性があり、実証的かつ論理的に展開されている。
 - (5) 研究成果の新規性、独創性
研究に新たな知見があり、独創性が認められる。

4 卒業制作の審査は、以下の観点から総合的に行うものとする。

(1) 研究テーマの明確性、適切性

研究テーマが明確かつ適切に設定されている。

(2) 先行事例の理解と提示

先行事例が適切に提示、言及され、精確な理解や的確な評価が行われている。

(3) 研究方法の妥当性

研究テーマ及び内容に応じた制作方法が選択されている。

(4) 構想の継続性、発展性

当該の制作方法によって、当該構想の継続や発展性が見込まれること。

(5) 研究成果の新規性、独創性

研究に新たな知見があり、独創性が認められる。